



# 歴史ある港 木更津港

## ◆江戸時代

### ～木更津港の発祥～

木更津港は、現在の内港である吾妻地区において、慶長19年(1614年)に江戸幕府と豊臣家との間で行われた合戦「大坂の役」における勲功によって、地元の回船業者が江戸幕府から江戸府船町と木更津間の渡船営業権を与えられたことになり、江戸時代から当地方の物資集散港として繁栄しました。

### ～木更津船と海上輸送～

当時の海上輸送で活躍したのが木更津と江戸を往来した小廻しの廻船である木更津船の花形「五大力船」です。年貢米など豊富な物資を輸送していたこの船は、幅は狭く、船底から水面までを浅く平らにするなど、海川両用の様々な工夫が施されていました。

物資の輸送だけでなくとどまらず、風向きが良ければ江戸まで日帰りできることや、房州へ続く街道があったことから、多くの旅人も往来。浮世絵師の歌川広重や葛飾北斎、俳人の小林一茶なども木更津船を利用して頻りに訪れ、江戸の流行や風俗が盛んに流入するなど、木更津の発展に繋がりました。



木更津船(五大力船)  
提供:木更津市立図書館

## ◆明治～大正～昭和時代

明治12年には、木更津と東京及び横浜間に定期船が就航しましたが、大正元年に蘇我・木更津間に鉄道が開通したことにより、海運は次第に衰退し、さらに大正6年に関東一帯を襲った台風により港は壊滅、定期船も廃止となりました。

### ～木更津港内港の成立～

大正15年、内務省告示により公有水面埋立法に基づく指定港となり、港としての本格的な修築は昭和7年から始められました。

昭和9年に港の北側に木更津海軍航空隊の飛行場が建設されるのに伴い港湾工事も大型化し、昭和12年には航路、泊地、防波堤、護岸が完成し、ほぼ現在の木更津港内港(吾妻地区)の形態が整いました。



大正期の木更津内港の様子

「富士見六景 木更津海岸」定方塊石作  
提供:木更津市郷土博物館金のすず

「千葉縣木更津町鳥瞰」松井天山作(昭和四年一月写生)



提供:木更津市郷土博物館金のすず

## ◇木更津内港

左図は、木更津内港(現在の木更津港吾妻地区)の鳥瞰図です。

図中央上寄りに木更津駅があり、港に向かって街並みが広がっている様子が確認できます。

図の中央下には、海の中に鳥居が確認でき、この周辺が遠浅であることがわかります。

かつて、港の整備が進む前は、船は沖合で停泊し、はしけが渚との間を連絡し、干潮時には「海中人力車」が干潮を走って客の送迎をする光景も見られた(「千葉県史(明治編)」)との記述もあります。

また、しかけが設置されている様子から漁業が盛んであったことが伺えます。

## ◆昭和時代

### ～重要港湾に指定～

戦後、昭和25年5月に港湾法制定に伴い、昭和28年に地方港湾に指定され、これに基づき千葉県が木更津港の港湾管理者となりました。

昭和36年、君津地区に八幡製鉄(株)(現:日本製鉄(株))が進出し、外航船が入出港するようになりました。また、昭和40年には横浜及び川崎を結ぶカーフェリーが就航し、昭和43年4月には国の重要港湾に指定されました。

やがて、木更津港内港は背後地である木更津市が商工観光都市として繁栄するとともに狭あい化したため、港湾再開発を目的として木更津南部地区に公共ふ頭などの整備が計画されました。当地区は、昭和43年から約460haの埋立が開始され、建設資材、林産品類、金属品等を取り扱うふ頭として整備されました。

主要航路である木更津航路については、昭和44年から整備が開始され、昭和48年に完成し(水深-19m、幅員450m)、翌昭和49年には港則法に基づく法定航路に指定されました。

### ～港湾区域の拡張～

昭和52年、港湾区域の拡張により、富津地区の地先海域が木更津港に編入され、昭和60年には、富津航路が港則法上の指定航路となり、同年12月に東京電力(株)(現:株)JERA)富津火力発電所が操業を開始しました。



木更津港フェリー発着場(昭和46年)  
提供:木更津市立図書館



木更津南部地区(昭和58年)



昭和36年 木更津港吾妻地区



平成29年 木更津港吾妻地区

## ◆平成時代

### ～物流機能の強化・拡充～

平成に入ると、更に港湾施設・緑地整備が進むとともに、周辺の交通網も整備されました。平成9年には東京湾アクアラインが開通し、これに伴いフェリー航路は廃止となりました。

平成18年3月、公共ふ頭の利用促進と物流における企業コスト削減を目指して、陸上輸送の規制を緩和する「木更津港湾物流効率化特区」に認定されました。これにより、特殊な大型車両を利用した効率的な貨物輸送が実現されました。

平成20年4月には、3万トン級の貨物船が接岸可能な大型公共岸壁(-12m)の2バース目が供用開始となり、同年8月から中古自動車の輸出が開始されました。

さらに、鉄鋼業の国際競争力強化を図るため、平成23年5月に「国際バルク戦略港湾」に選定されています。

また、平成28年より、近年のクルーズ船寄港の需要増加を背景に、国の直轄事業においてクルーズ船受入れ環境が整備され、平成29年以降、クルーズ船「ばしふいっくびいなす」が寄港しています。平成30年12月には、木更津市がクルーズオブザイヤー2018特別賞を受賞しました。